



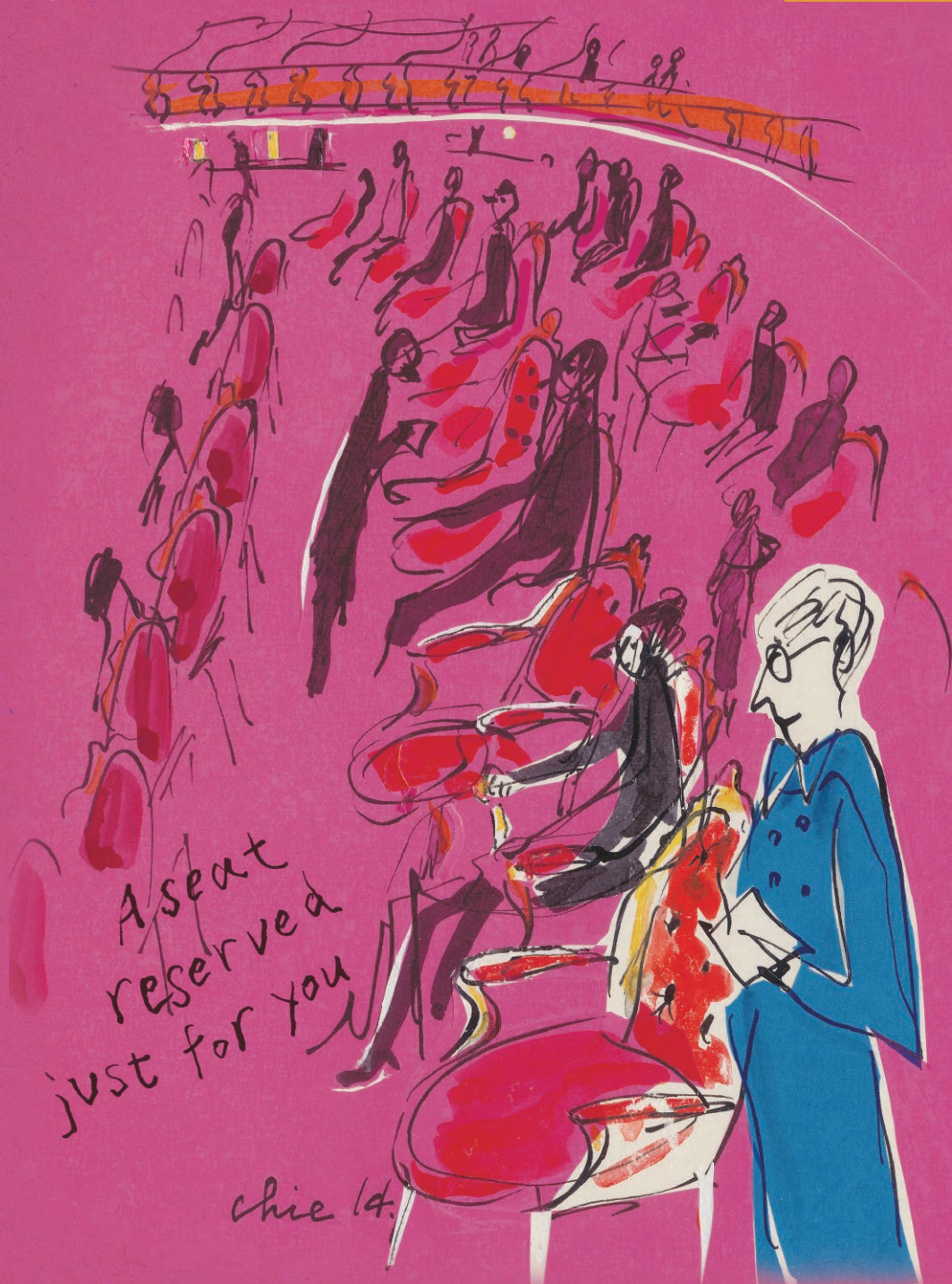
TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

2022シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団

2022

2



A seat
reserved
just for you

chie 14.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第144回東京オペラシティ定期シリーズ

2月24日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第964回サントリー定期シリーズ

2月25日(金)19:00開演 サントリーホール

第965回オーチャード定期演奏会

2月27日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

2/24

2/25

2/27

指揮：井上道義

ピアノ：大井浩明*

コンサートマスター：依田真宣

エルガー

序曲『南国にて』 Op. 50 (約20分)

クセナキス

ピアノ協奏曲第3番『ケクロプス』* (日本初演)

〈クセナキス生誕100年〉(約17分)

協力：タカギクラヴィア株式会社 コンサート&アーティスト部

ー 休憩 (約15分) ー

ショスタコーヴィチ

交響曲第1番 へ短調 Op. 10 (約35分)

I. アレグレット・アレグロ・ノン・トロポ

II. アレグロ

III. レント

IV. アレグロ・モルト・レント・アレグロ・モルト・プレスト

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura (2/27)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

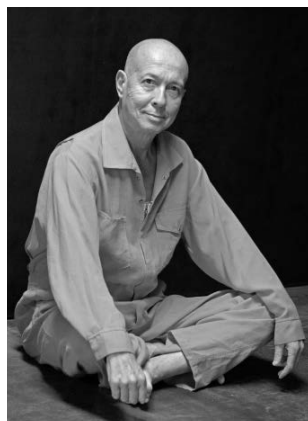
※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール

指揮

井上道義

Michiyoshi Inoue, conductor



©Yuriko Takagi

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクール優勝。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2007年、ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクトを企画立案、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2014年4月、病に倒れるが同年10月「いざ、鎌倉への道」にて復帰を遂げる。近年では、全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」(野田秀樹演出)、大阪国際フェスティバル「バーンスタイン：ミサ」(演出兼任)、全国共同制作オペラ「ドン・ジョヴァンニ」(森山開次演出)、いずれも総監督として率い既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げている。2016年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、2018年「大阪文化賞」「大阪文化祭賞」「音楽クリティック・クラブ賞」、2019年「有馬賞」を受賞。オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。



ピアノ

大井浩明

Hiroaki Ooi, piano

京都市出身。ベルン芸術大学ソリストディプロマ課程修了。ピアノと室内楽をB.カニーノに、チェンバロと通奏低音をD.ベルナーに師事。第30回ガウデアムス国際現代音楽演奏コンクール（ロッテルダム）、第1回メシアン国際ピアノコンクール（パリ）に入賞。第3回朝日現代音楽賞、第11回アリオン賞、第4回青山音楽賞、第9回村松賞、第11回出光音楽賞、第61回文化庁芸術祭新人賞、第15回日本文化芸術奨励賞、第1回一柳慧コンテンポラリー賞等を受賞。N響、新日フィル、都響、東京シティフィル、仙台フィル、京都市響等のほか、ヨーロッパではバイエルン放送響、アンサンブル・アンテルコンタンポラン（パリ）、ASKOアンサンブル（アムステルダム）、ドイツ・カンマーオーケストラ（ベルリン）他と共演。『クセナキス管弦楽全集』プロジェクト（仏 TIMPANIレーベル）に作曲者自身の推挙により独奏者として参加、ルクセンブルク・フィルと共演したCD《シナファイ》《エリフソン》はベストセラーとなり、ル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック“CHOC”グランプリを受賞した。

公式ブログ <https://oopiano.exblog.jp/>

楽曲紹介

エルガー 序曲『南国にて』Op. 50

解説=等松春夫

古来イタリアに魅せられた作曲家は少なくない。英国の国民的作曲家エドワード・エルガー(1857-1934)もその一人である。1903年末から翌年初めにかけて、エルガーは妻子を伴って北イタリアの地中海沿いの町アラッシオに滞在した。このときの印象をもとに書いたのが『南国にて』である。ソナタ形式に倣ってはいるが、「展開部」に相当する部分が「ローマ人」とCanto popolare(民謡)という新たな2つの主題を中心に進められるので、実際には「ソナタ形式の序曲の衣を纏った交響詩」と言えよう。旅人が南国に到着した時の高揚した気分、群青色に広がる地中海、海岸までせり出した切り立った山々、羊飼いの牧笛の音色……。そして、いにしへのローマの栄枯盛衰への感慨が、練達のオーケストレーションによって描かれる。

短い序奏のあと、雄渾な第1主題が mf で主としてチェロとホルンによって奏される。高揚がおさまると、のどかな田園風景を思わせるたおやかでどこか官能的な第2主題を pp で弦楽器群が奏する。しばらく思索と逡巡が続くが、突然、稲妻の閃光と共に旅人の脳裏に古代ローマの幻想が浮かび上がる。かつてカエサルの軍勢がこの道路を進軍していったのだ。重々しい「ローマ人」の主題が ff のトゥッティで現れる。ティンパニと大太鼓が地響きのようなアクセントを打ちこむ中、この主題は65小節にわたり執拗に繰り返される。やがて旅人は再び現在に引き戻される。いつのまにか宵闇がせまり、点滅するグロッケンシュピールは星のまばたきを思わせる。遠くから響く牧童の歌。Canto popolareという憂愁を帯びた旋律が、まず独奏ヴィオラ、ついで独奏ホルンによって静かに奏でられる(この旋律は後に独奏ヴィオラやヴァイオリン用の小品に編曲された)。やがて再現部となり、曲頭の高揚した気分が蘇える。コーダでもグロッケンシュピールが活躍し、ティンパニの連打に導かれて第1主題が念を押すように ff でゆっくりとまず金管群に、続けて木管群により奏されて、輝かしく全曲が結ばれる。

1904年3月にロンドンで3日間にわたって開かれたエルガー作品のみを集めた音楽祭で自身の指揮で初演され、国王エドワード7世も臨御した。同年夏にエルガーは国王からナイト位を授けられて「サー・エドワード・エルガー」となる。ちなみにアラッシオには現在 Via Edward Elgarと名付けられた小路がある。

【作曲年代】1903～1904年 【初演】1904年3月16日、ロンドン、コヴェント・ガーデン「エルガー音楽祭」にて、ハレ管弦楽団の演奏、作曲家自身の指揮による

【楽器編成】フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール）、ハープ、弦楽5部

とうまつ・はるお／1962年米国バサデナ市生。防衛大学校国際関係学科教授。専攻は政治外交史・比較戦争史。オックスフォード大学博士（政治学・国際関係論）。主な著訳書に『日本帝国と委任統治』『なぜ国々は戦争をするのか』A Gathering Darkness: The Coming of the War to Asia and the Pacific など。1991～97年の留学中に英国音楽の魅力に目覚める。エルガー『エニグマ変奏曲』、『南国にて』、『フロワサル』、『ソスピーリ』、ホルスト『惑星』等のスコア解説を執筆。英国エルガー協会とホルスト協会の会員。

クセナキス

ピアノ協奏曲第3番『ケクロプス』

解説＝野々村 禎彦

クラシック音楽の伝統的作曲法では、どんな大伽藍も動機＝煉瓦を積み上げて作ってゆく。だがイアニス・クセナキス（1922-2001）の作曲法は基本が違い、まず全体構造を音高と経過時間の2次元グラフでスケッチし、順次細部を埋めてゆく。その際に数学やコンピュータを駆使するが、あくまで細部を埋める便宜的手段であって本質ではない。ただし、作曲技法の変化に応じて作風も変化しており、3曲のピアノ協奏曲はその変化をよく反映している。

60年代前半までは、確率計算で密度のみを変えた音の雲を流し込んだ、一種異様な平板さが逆に個性になっていた。だが、「ふるいの理論」を用いて人工音階を生成すると様相が一変した。音階の構成音を単に流し込むだけでは垂れ流し旋法即興になってしまうので、細部から全体まで一貫した規則で生成する手法も併せて考案した結果、緻密な構造体の底から古代ギリシャ風

の旋律が漂う、圧倒的な作品群が生まれた。ピアノ協奏曲第1番『シナファイ』(1969)は、この時期の代表作のひとつである。

だが、システムで書ければ直感的にも書けるはずだと考えるのが創作者というもの。そして彼は「樹形図」という枝分かれする図形楽譜に至った。幹で基本構造を作ると枝葉が細部になり、回転や拡大縮小して敷き詰めれば大編成でも楽勝。ピアノ協奏曲第2番『エリフソン』(1974)の即興的な伸びやかさは、新手法初期の成功例である。しかし、封印していた人工音階を70年代後半に解禁すると質のばらつきが大きくなった。グリッサンド中心ならば良いが、音階が入るとやはり垂れ流し旋法即興になってしまう。

この問題点を解決したのが80年代の作品群であり、ピアノ協奏曲第3番『ケクロプス』(1986)はこの時期の代表作のひとつである。70年代後半で成功していたのは専ら打楽器作品だという省察からパルスを音楽の中心に据え、音階はまずパルスを構成する和音として現れ、声部がばらけるにつれて旋律になる。楽器法も打楽器にならって音色対比を強く打ち出した。そして生まれたのは、古代祭祀のような原初的エネルギーに満ちた音楽。数学的手法導入以前に探っていた、ギリシャの民俗音楽と現代ヨーロッパ音楽の融合という課題に、紆余曲折を経てたどり着いた。ちなみにケクロプスとは、ギリシャ神話に登場する半神半龍の初代アテネ王である。

『ケクロプス』の成り行きは、オーケストラのトゥッティのパルスに独奏ピアノが飲み込まれた状態で始まり、パルスがばらけるたびに浮上しては飲み込まれる過程を繰り返す。ピアノが撒き散らす音型や一緒に浮上する楽器は毎回違い、3分の1地点でカデンツァが始まる。そして折り返し点でオーケストラは朗々と歌い、ピアノは点描的な音型を弾き始めて風景は一変する。その後も往復運動は続くが、いったん視界が開けた後は時間の流れは加速する。最後は、冒頭に回帰した刹那にフェードアウト。さんざん大音量で盛り上がっておきながら、コードも何もないのがクセナキス流。

今回の『ケクロプス』日本初演で、大井は3曲すべてを制覇した世界で唯一のピアニストになったが、前2曲もキャリアの節目で弾いている。井上／新日本フィルとの『シナファイ』は、ヨーロッパ留学直前の定期演奏会デビューであり、この演奏の真正性をクセナキスが絶賛して国際的キャリアが開けた。沼尻竜典／東京シティ・フィルとの『エリフソン』は、クセナキス没年の出光音楽賞受賞者公

演で、追悼演奏として日本初演された。

【作曲年代】1986年 【初演】1986年11月13日、ニューヨーク、リンカーン・センターにて、ロジャー・ウッドワードの独奏ピアノ、ニューヨーク・フィルハーモニックの演奏、ズービン・メータの指揮による

【楽器編成】フルート4、オーボエ4、クラリネット4(4番はバス・クラリネット持ち替え)、ファゴット4(4番はコントラファゴット持ち替え)、ホルン4、トランペット4、トロンボーン4、テューバ、ティンパニ2、打楽器(大太鼓、トム・トム3、ボンゴ2)、ハープ、弦楽5部、独奏ピアノ

ののむら・よしひこ／1966年東京生まれ。第1回柴田南雄音楽評論賞奨励賞を受賞し、音楽批評活動が続ける。クセナキス『形式化された音楽』(富永星訳、筑摩書房、2017)の監訳の他、有馬純寿・川崎弘二編著『日本のライブ・エレクトロニクス音楽』(engine books, 2021)、川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』(愛育社、2009)、ユリイカ誌『総特集:大友良英』(青土社、2007)などに寄稿。

ショスタコーヴィチ 交響曲第1番 ヘ短調 Op. 10

解説＝増田良介

ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906-1975)の交響曲第1番は、18歳の作曲者が音楽院の卒業制作として書いた作品だ。1924年10月に着手され、翌年1月には第3楽章までが完成した。終楽章には苦勞したようだが、書き始められると一気に進み、4月末には全曲のピアノ譜ができあがった。7月1日にはオーケストレーションも終了した。

当時の彼は、父の急死によって経済的困窮に陥り、映画館で伴奏ピアニストとして働くなど、苦しい生活を送っていた。さらに、映画館と給料不払いを巡って裁判になったり、友人が不治の病になるなど、彼の身边には、気が滅入るようなできごとが相次いで起こっていた。ショスタコーヴィチは、ピアニストのレフ・オボーリンへの手紙の中で、それらについて嘆いたあと「(終楽章は)非常に陰気な、ほとんど、陰気では並ぶもののないミヤスコフスキーのようなものになりました」と記し、当時の彼の憂鬱な気分とこの作品の関係を示唆している。

初演は、1926年5月12日、ニコライ・マルコの指揮するレニングラード・フィルによって行われ、大成功を収めた。その後まもなく、この曲は、ワルターやスコフスキーといった国外の名指揮者たちに取り上げられ、ショスタコーヴィチの名を世

界に轟かせることになる。

曲は、スケルツォを第2楽章に置く全4楽章構成を採用している。

第1楽章 アレグレット―アレグロ・ノン・トロツポ ソナタ形式

トランペット独奏で始まる導入部のあと、行進曲風の第1主題がクラリネットで、ワルツ風の第2主題がフルートで出る。ヴァイオリン独奏で始まる展開部では、二つの主題のほか、導入部の主題も登場してクライマックスを築き、そのまま再現部に突入する。コーダでも小さな盛り上がりがあり、謎を残すように終わる。

第2楽章 アレグロ 三部形式

ショスタコーヴィチらしい戯画的なユーモアのあるスケルツォ。ピアノが独奏楽器として活躍する。

第3楽章 レント 三部形式

夢幻的な雰囲気の主部は、冒頭でオーボエの吹く主題のほか、『トリスタンとイゾルデ』を思わせるチェロ独奏の旋律や、何度も登場するタッタタータタというファンファーレ風の特徴的な音型によって進む。中間部では、後年のショスタコーヴィチの作品にしばしば使われる葬送行進曲のリズムが現れる。主部が回帰したあと、切れ目なしに終楽章に入る。

第4楽章 レント―アレグロ・モルト 自由なソナタ形式

嵐のような提示部では、クラリネットによる半音階的な第1主題と、弦と木管による第2主題が現れ、その後は抒情的な部分と激しい部分がめまぐるしく交代しつつ進む。全休止のあと、ティンパニがソロで第3楽章のファンファーレ風の動機の反行型を打ち鳴らす箇所は特に印象的だ。コーダでは全楽器がこの動機を繰り返しつつ、高揚の中で全曲を閉じる。

【作曲年代】1924～1925年 【初演】1926年5月12日、レニングラードにて、レニングラード・フィルハーモニー交響楽団の演奏、ニコライ・マルコの指揮による

【楽器編成】フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、アルト・トランペット1、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、タム・タム、鐘)、ピアノ、弦楽5部

ますだ・りょうすけ／音楽評論家。ショスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽、マーラーなどの後期ロマン派音楽を中心に、『レコード芸術』『CDジャーナル』誌、京都市交響楽団、東京都交響楽団などの演奏会プログラム、各社ライナーノート等に執筆している。

特別記事

【イアニス・クセナキス生誕100年】『ケクロプス』日本初演によせて

クセナキスの夢が現実になるとき

野々村 禎彦(音楽批評)

2/24

2/25

2/27



2022年に生誕100年を迎える作曲家、イアニス・クセナキス。その革新性は後の現代音楽だけでなくポピュラー音楽側の電子音楽にも多大な影響を与えた

©Famille Iannis Xenakis DR

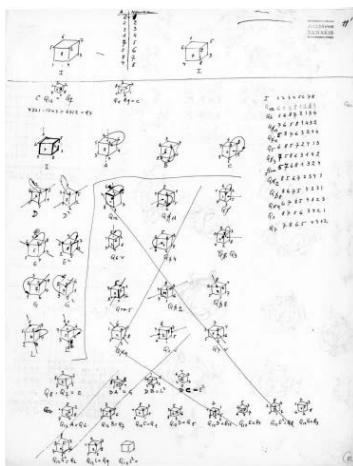
100年前にルーマニアで生まれてギリシャで育ち、過酷な運命を経てフランスで活動した**イアニス・クセナキス Iannis Xenakis** (1922-2001) は、20世紀で最も重要な作曲家のひとりである。音楽の躍動感と革新性はモンテヴェルディやベートーヴェンに匹敵する。

クセナキスはアテネ工

科大学で土木工学を学び、ナチスドイツ侵攻に際して抵抗運動に参加した。ドイツ軍撤退後も右派独裁政権を支持する英国軍と戦い続け、市街戦で顔の左側と聴力をほぼ失う重傷を負ったが奇跡的に生き延びた。内戦が収まると復学して卒業したが、再び激化すると左派抵抗運動経験者の一斉逮捕が始まり、やむなくフランスに亡命して**ル・コルビュジェ Le Corbusier** (1887-1965) の建築事務所に着得た。仲間たちを残して亡命した負い目を抵抗運動の体験を芸術作品に昇華して償うために、彼は学生時代に嗜んだ音楽を本格的に学んで作曲家になろうと思い立つ。30歳近い青年の無謀な挑戦を嘲笑する者も多かったが、**オリヴィエ・メシアン Olivier Messiaen** (1908-92) は彼を温かく迎え、理系の知識を作曲に活かせば回り道も無駄にはならないと励ました。



1958年ブリュッセル万博における電気機器メーカー・フィリップス社のパビリオン。ル・コルビュジェの建築事務所に在職中のクセナキスが設計した。柱を持たない構造の会場内ではヴァレーズの電子音楽「ポエム・エレクトロニク」が流された ©Wouter Hagens



クセナキスの数学を用いた作曲の一例：『ノモス・ガンマ』のプロタイプとして書いたチェロ独奏曲『ノモス・アルファ』で用いた点群対称性の一覧 ©Famille Iannis Xenakis DR

1954年11月、ヴァレーズ『砂漠』の初演を控えたヘルマン・シェルヘン **Hermann Scherchen** (1891-1966) に彼は譜面を見せに行く。シェーンベルク『月に憑かれたピエロ』の初演以来、新作を発掘しながらキャリアを築いてきたこの大指揮者は、彼自身もまだ評価に迷っていた『メタスタシス Metastaseis』(1953-54) のスケッチを「いま書かれているどんな音楽にも似ていない、全く別な世界から来た発想」と激賞し、翌年のドナウエッシンゲン現代音楽祭に推薦した。前代未聞の音楽はスキャンダルになり、12音技法を受

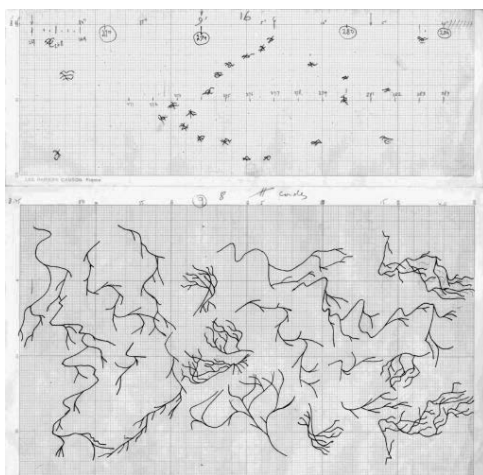
け継いだ西欧の主流とは異なる新しい潮流を生んだ。シェルヘンはこの出会いの後、聴衆はもちろん批評家にもなかなか理解されないクセナキスの作品を辛抱強く紹介し続けた。そして1966年4月、聴衆の中に分散された大オーケストラのための『テレテクトール Terretektorh』(1965-66) が満場の喝采を浴び、批評家からも絶賛されて彼が作曲家として評価を確立した瞬間を指揮台から見届けたシェルヘンは、その2ヶ月後に世を去った。

建築家の直感で書き進めた『テレテクトール』を精緻に理論化したのが『ノモス・ガンマ Nomos gamma』(1967-68) であ

り、井上道義 (1946-) の十八番でもある。数学を駆使した書法の底に流れる抵抗運動の熱い記憶を、井上は直感で掴んで音にする。クラシック音楽の伝統的な書法は伝統的な西洋建築の似姿であり、どんな大伽藍も動機=煉瓦を積み上

げて作ってゆく。だがクセナキスの「全く別な世界から来た発想」は、むしろコルビュジェのモダニズム建築の似姿である。まず全体をスケッチし、鉄骨で構造を組んで細部はコンクリートを流し込んで作る。音高と経過時間の2次元グラフによるスケッチが彼の音楽の核心であり、「数学を駆使した書法」は、コンクリートの配合や注入作業に相当する。本来は建築家の領分ではなく、ましてや鑑賞者は全く意識する必要はない。音の雲の移り変わりに耳を澄ましているだけでよい。

井上が京都大学交響楽団に客演した1988-89年、**大井浩明**（1968-）はチェロパートの一員として出会ったが、ピアノ独奏者として最初に共演したのは、井上が都響を振った1993年のある作曲コンクールの選考演奏会だった。この後大井は独力でキャリアを重ねたが、海外留学を控えた1996年、京都市響の音楽監督だった井上が大井を新日本フィルと京都市響の定期演奏会に独奏者として招聘したのがさらなる飛躍の契機になった。大井はクセナキスのピアノ協奏曲第1番『**シナファイ Synaphai**』（1969）を選び、クセナキスはこの演奏を高く評価した。それらしく聴こえる範囲でいかに音を抜くかを競うがごとき悪しき演奏伝統と大井は手を切り、あらゆる手段を用いて作曲者の意図を忠実に再現しようとした。井上は長年無視されてきたオーケストラの特殊配置を正しく実現した。作曲者はこの演奏の真正性を見抜き、サラベール社は貸譜に付属する模範録音として配布している。タマヨ／ルクセンブルクフィルの系統的録音でも大井は独奏者に選ばれた。フジテレビの情報番組「とくダネ!」で紹介後、現代音楽としては異例の売り上げを記録したことは、「クセナキスの難解さ」は思い込みに過ぎないことを示唆している。大井はピアノ協奏曲第2番『**エリフソン Erikhthon**』（1974）の日本初演も担当し、再び録音も行った。



ピアノ協奏曲第2番『エリフソン』のスケッチ(上)と細部の図形楽譜(樹形図)(下)

©Famille Iannis Xenakis DR

2/24

2/25

2/27

そしてクセナキス生誕百年の今年、大井と井上は久々の共演でピアノ協奏曲第3番『ケクロプス **Keqrops**』(1986)を選んだ。ケクロプスとはギリシャ神話に登場する半神半龍の初代アテネ王、エリフソンはその息子。細部から全体まで一貫した規則で生成されるモダンイズムの極致が『シナファイ』、『樹形図』という枝分かれする図形楽譜に基づいた直感的な奔放さが『エリフソン』、両者を統合した自在の境地が『ケクロプス』である。クセナキスの全鍵盤独奏曲(ピアノ、モダンチェンバロ、オルガン)と全ピアノ協奏曲を世界で唯一制覇した独奏者と、作曲家公認の指揮者のコンビの手で、この作曲家の最終到達点がいま明かされる。



晩年のクセナキス。若い時期はレジスタンス活動による傷(左眼は義眼)を隠すため、顔の左側を写真に撮らせなかったという。後方は孫のユリシース ©Famille Iannis Xenakis DR

ノイズ音楽やエレクトロニカに大きな影響を与え、電子音楽作品も多いクセナキスだが、オーケストラ曲は終生書き続けた。このメディアでなければ得られない複雑な音響があることを、彼は知っていた。今回を機に、彼の本領であるオーケストラ曲がますます演奏されることを望みたい。

The 144th Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. Feb. 24, 2022, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 964th Suntory Subscription Concert

Fri. Feb. 25, 2022, 19:00 at Suntory Hall

The 965th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Feb. 27, 2022, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Michiyoshi Inoue, conductor

Hiroaki Ooï, piano*

Masanobu Yoda, concertmaster

Elgar:

In the South (Alassio) Op. 50 (ca. 20 min)

Xenakis:

Keqrops - Κέκρωψ (Κέκρωψ) for piano and orchestra*

Japan Premiere Celebrating Xenakis' 100th anniversary (ca. 17 min)

cooperated by Takagi Klavier Inc. Concert & Artist Department

— intermission (ca. 15 min) —

Shostakovich:

Symphony No.1 in F minor, Op. 10 (ca. 35 min)

I. Allegretto - Allegro non troppo

II. Allegro - Meno mosso

III. Lento

IV. Allegro molto - Lento - Allegro molto - Presto

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Feb. 27)



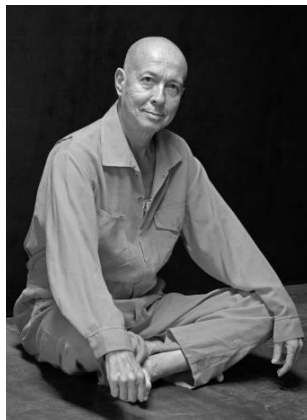
- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

24
Feb

25
Feb

27
Feb

Artists Profile



©Yuriko Takagi

Michiyoshi Inoue,
conductor

Mr. Inoue got the critical acclaim following his first prize at the Guido Cantelli Conducting Competition in Milan brought him to the attention of the international music scene, and he has been a familiar face on podiums all over the world ever since. From 1977 to 1982 Mr. Inoue was Principal Guest Conductor at the New Zealand Symphony Orchestra, he was appointed Music Director of Tokyo's New Japan Philharmonic, where he remained until 1988 , and he was the Music Director of the Kyoto Symphony Orchestra between 1990 and the spring of 1998, and he was the Principal Conductor of the Osaka Philharmonic Orchestra between 2014 to 2017, and From 2007 to 2018, he was engaged as Music Director of the Orchestra Ensemble Kanazawa.

The highlights of Mr. Inoue's recent activities since his return after a rest because of serious illness include the general direction of the new production of Mozart "Le Nozze di Figaro: What The Gardener Saw" in collaboration with the stage director Hideki Noda in 2015 and 2020 (successful fourteen concerts in ten cities in Japan) and the general direction (including the staging) of the theater piece of Bernstein "Mass" for the 55th Osaka International Festival 2017.



Hiroaki Ooï,
piano

24
Feb

25
Feb

27
Feb

Native of Kyoto, Hiroaki Ooï received Swiss and Japanese governmental scholarships to study at Hochschule der Künste Bern, where he earned his soloist diploma for piano and concert diploma for harpsichord, working with Bruno Canino and Dirk Börner. Ooï has also attended master classes by András Schiff, Lazar Berman, Robert Levin, Luigi Ferdinando Tagliavini (organ) and Miklós Spányi (clavichord). A winner at the Gaudeamus International Interpreters Competition (Rotterdam, 1996) and the Olivier Messiaen International Piano Competition (Paris, 2000), Ooï has received numerous awards and distinctions.

He has appeared as soloist on such festivals as La Biennale di Venezia, Musica Viva, Hannover Biennale, the Avignon Festival, the Pan Music Festival (Korea), and performed worldwide with orchestras including Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, the Ensemble Intercontemporain (Paris), the Deutsches Kammerorchester (Berlin), Asko Ensemble (Amsterdam), the NHK Symphony Orchestra (Tokyo), the New Japan Philharmonic (Tokyo), and the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra.

With Arturo Tamayo and Orchestre philharmonique du Luxembourg, Ooï has recorded Xenakis' two piano concertos, "Synaphai" and "Erikhthon"; the former was internationally acclaimed, winning the prestigious Choc des Chocs award, and the latter was the world premiere recording, thirty years since the date of composition.

Program Notes

Text by Robert Markow

Elgar: In The South (Alassio), Op. 50

Alassio is the name of a small town on the Italian Riviera, just a few miles from France, where Elgar and his wife went in late 1903 to escape the damp chill of their native England. It was Elgar's first visit to Italy and he was duly impressed. Wandering one day through the nearby Vale of Andora, he wrote of "streams, flowers, hills; the distant snow mountains in one direction, and the blue Mediterranean in the other. [I was] by the side of the old Roman way. A peasant shepherd stood by an old ruin, and in a flash it all came to me – the conflict of armies on that very spot long ago, where I now stood – the contrast of the ruin and the shepherd – and then, all of a sudden, I came back to reality. In that time I had 'composed' the overture – the rest was merely writing it down."

Elgar was not entirely truthful about having "composed" the whole overture in that moment, for the exultant opening theme had already been jotted down some four years earlier. Nevertheless, it serves perfectly to express his new-found joy in this spot of land. The second theme is a graceful, gently flowing melody initially heard in the clarinets in the minor mode. There is a further theme in the pastoral vein. In place of a development section devoted to the themes already presented, Elgar introduces two additional episodes. The first, inspired by thoughts of ancient Roman armies, is a grand, pompous idea in the heavy brass that paints, in the composer's words, "the relentless and domineering onward force of the ancient day, and gives a sound-picture of the strife and wars, the 'drums and tramlings' of a later time." The second Elgar described as a *canto popolare* (a folk song, though it is his own), heard against an accompaniment of shimmering strings, glockenspiel and harp, first in the solo viola, then in the solo horn. The themes of the opening section return in order in the recapitulation, and the music ends in a great orchestral

tour de force in E-flat major, the key traditionally used for “heroic” music like Beethoven’s *Eroica* Symphony and *Emperor* Concerto, and Strauss’s *Ein Heldenleben*.

The first performance of *In the South* (or *Alassio* – the work goes by both names) was conducted by the composer on March 16, 1904 at an Elgar Festival in London’s Covent Garden. *In the South* joins Berlioz’ *Harold in Italy*, Mendelssohn’s *Italian* Symphony, Strauss’s *Aus Italien*, Wolf’s *Italian Serenade* and Respighi’s Roman Trilogy as a magnificent musical tribute to the glory of Italy and the country’s natural beauties.

EDWARD ELGAR: Born in Broadheath, England, June 2, 1857; died in Worcester, February 23, 1934

Work composed: 1903 – 1904 **World premiere:** March 16, 1904 at an Elgar Festival in London’s Covent Garden, conducted by the composer

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, cymbals, glockenspiel), harp, strings

24
Feb25
Feb27
Feb

Xenakis:

Keqrops - Κεχροψ (Κέκρωψ)
for piano and orchestra

Iannis Xenakis, whose centenary year is being observed in 2022, ranks among the most important musical thinkers of the twentieth century. Usually identified as a Greek-French composer, he was born to Greek parents in Romania, grew up in Greece, where he received much of his education, and lived most of his life in Paris (from 1947 onwards). He became a French citizen in 1965. Xenakis initially set his sights on a career in architecture and engineering, and won degrees in these subjects in both Athens and Paris. While in Paris, he became an assistant to the renowned architect Le Corbusier. He worked with Le Corbusier on projects in France, Iraq, India, and, most famously, the Philips Pavilion at the 1958 Brussels World’s Fair, which he

designed mostly himself using principles of catenoid construction. Also in Paris, Xenakis pursued further studies in music, particularly with Messiaen.

Xenakis is remembered above all for his use of mathematical models in his musical designs, bringing the two fields together in a sort of architectural fusion. He coined the term *stochastic music*, meaning music in which dense textures he called “clouds” or “galaxies” are constituted of random sequences of notes, as seen in such works as *Metastasis* (1954) and *Pithoprakhta* (1956). The British critic Tom Service has noted in his music a “deep, primal rootedness in richer and older phenomena even than musical history: the physics and patterning of the natural world, of the stars, of gas molecules, and the proliferating possibilities of mathematical principles.” Alex Ross, writing in *The New Yorker*, sees Xenakis as a composer who has “produced some of the rawest, wildest music in history – sounds that explode around the ears.”

Kegrops was composed in 1986 and was premiered by the New York Philharmonic with pianist Roger Woodward and conducted by Zubin Mehta, on November 13 of that year. The work has a prominent part for piano, but it is not a concerto in the traditional sense of dialogue between soloist and orchestra. Instead, the piano is closely integrated into the orchestral texture, and it plays most of the time throughout the seventeen-minute, single-movement work. (A close parallel might be found in Messiaen’s *Turangalila* Symphony.) The title, like that of many of Xenakis’ compositions, is a compound of two Greek words or roots, *krekoo* and *opsis*. Xenakis translated the title as *weaving*, but added that it could also refer to the Mycaenean legend of Cecrops, first king of the city of Athens and a cultural hero who introduced his subjects to marriage, ceremonial burial, reading and writing. Dense blocks of sound, furious eruptions from a large orchestra (all woodwinds and brass except tuba are in units of four), percussive violence, close interweaving of various blocks of sound (woodwinds, brass, strings, piano), and sliding melodic clusters are features that run throughout *Kegrops* in music of furious aggression alternating with uneasy calm.

IANNIS XENAKIS: Born in Brăila, Romania, May 29, 1922; died in Paris, February 4, 2001

Work composed: 1986 **World premiere:** November 13, 1986 in New York, by the New York Philharmonic with pianist Roger Woodward, conducted by Zubin Mehta

Instrumentation: 4 flutes, 4 oboes, 4 clarinets (4th doubling bass clarinet), 4 bassoons (4th doubling contrabassoon), 4 horns, 4 trumpets, 4 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, 3 tom-toms, 2 bongos), harp, strings, solo piano

Shostakovich: Symphony No. 1 in F minor, Op. 10

Few composers excel in their first attempt to write a symphony. Exceptions include Beethoven, Berlioz, Schumann, Brahms, Mahler and Sibelius, but these men were already nearing thirty or were even older when they first essayed the genre. Dmitri Shostakovich was still a student at the Leningrad Conservatory when he wrote his First Symphony, but this was no immature, bungling student work. Its premiere on May 12, 1926, under the direction of the distinguished conductor Nicolai Malko, heralded the arrival of a major figure not yet twenty, a composer already bursting with a unique musical personality and marked for greatness.

What accounts for the success of this remarkable First Symphony? Boldness of ideas unencumbered by academic and recondite procedures, a touch of “shock of the modern” tempered by memorable (if not exactly hummable) tunes, a sense of mischievousness, a flair for instrumental color, harmonic irregularities that seem like “wrong turns” in a silent film comedy, dramatic events, virtuoso writing for the orchestra, and an overall infectious enthusiasm are some of the reasons often put forth.

A short introduction presents a quirky dialogue between trumpet and bassoon. The first movement’s main theme is set to a grim marching rhythm, and is described by musicologist Edward Downes as “a cross between a quick march tune and a bit of old-fashioned ragtime.” In contrast the solo flute offers a gently lyrical, lilting theme, which is echoed by the clarinet.

24
Feb25
Feb27
Feb

The second movement alternates a zippy scherzo subject with a slower chant-like idea. The scherzo portions are reworkings of an orchestral piece Shostakovich had written at the age of twelve(!), and incorporates a new sonority not yet heard in the symphony, the piano. At one point Shostakovich superimposes both the scherzo and the chant ideas, which initially were set to different meters, different rhythms, different tempos, and different moods.

Romantic expressiveness is found in the third movement, whose melancholic opening theme is actually a clever variation of the principal theme of the first movement (the marching tune). The movement leads without pause into the finale. The solo clarinet presents the movement's first main theme, a breathless, virtuosic affair that covers the range of the instrument. Ideas from previous movements are worked in, including a highly dramatic timpani solo derived from the rhythmic motto of the third movement. A long coda follows, growing steadily in intensity to the final frenzied outburst.

DMITRI SHOSTAKOVICH: Born in St. Petersburg, September 25, 1906; died in Moscow, August 9, 1975

Work composed: 1924 – 1925 **World premiere:** May 12, 1926 in Leningrad, by the Leningrad Philharmonic Orchestra conducted by Nicolai Malko

Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, alto trumpet, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, bells), piano, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2022 Season Subscription Concerts Lineup

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets for concerts from February to May are now available.

Release dates for single tickets of concerts from June to October

Top priority [Patron, Subscription members]	Sat. 9 April from 10:00 *only by phone
Priority [Tokyo Phil Friends] & WEB Priority	Sat. 16 April from 10:00
General public	Tue. 26 April from 10:00

March

Thu. Mar 10, 19:00
at Suntory Hall

Fri. Mar 11, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. Mar 13, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Mikhail Pletnev,
Special Guest Conductor

Smetana: *Má Vlast* (My Country)
No. 1. Vyšehrad (The High Castle)
No. 2. Vltava (The Moldau)
No. 3. Šárka
No. 4. Z českých luhů a hájů
(From Bohemia's Meadows and Forests)
No. 5. Tábor
No. 6. Blaník

Single tickets available

May

Wed. May 18, 19:00
at Suntory Hall

Fri. May 20, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. May 22, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Myung-Whun Chung,
Honorary Music Director

Fauré:
Suite from "Pelléas and Mélisande"
Ravel: Daphnis et Chloé Suite No. 2,
"Fragments symphoniques"
Debussy: La Mer,
trois esquisses symphoniques pour orchestre
Ravel: La Valse,
Poème choréographique pour orchestre

Single tickets available

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)



June

Wed. June 8, 19:00
at Suntory Hall

Thu. June 9, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. June 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Mikhail Pletnev,
Special Guest Conductor

Shchedrin: "Carmen" Suite
(Shchedrin's 90th anniversary)
Tchaikovsky: Experts from the ballet
"Swan Lake"(Pletnev special edition)

Single tickets will be available from April on

July

Thu. July 7, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. July 10, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Tue. July 12, 19:00
at Suntory Hall

conductor: Daichi Deguchi
violin: Mayu Kishima

Khachaturian:
Experts from the ballet "Gayane"
Khachaturian: Violin Concerto
Khachaturian:
Symphony No. 2 "The Bell"

Single tickets will be available from April on

September

Thu. Sep 15, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Sep 16, 19:00
at Suntory Hall

Mon./Holiday Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Andrea Battistoni,
Chief Conductor

Liszt/Battistoni: Années de pèlerinage,
Deuxième année - Italie, S. 161: No. 7,
Après une lecture du Dante -
Fantasia quasi sonata (After a Reading of
Dante: Fantasia quasi Sonata from Years of
Pilgrimage "Second Year: Italy" S. 161 No. 7)
Mahler: Symphony No. 5

Single tickets will be available from April on

October

Thu. Oct 20, 19:00
at Suntory Hall

Fri. Oct 21, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. Oct 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung,
Honorary Music Director

Verdi: Opera "Falstaff" in concert style

Single tickets will be available from April on

Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより ― 2022年シーズン今後の定期演奏会

3月の定期演奏会

第966回サントリー定期シリーズ

3月10日(木) 19:00

サントリーホール

第145回東京オペラシティ定期シリーズ

3月11日(金) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第967回オーチャード定期演奏会

3月13日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール



指揮：ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』(全曲)

第1曲 ヴィシェフラド(高い城) / 第2曲 モルダウ / 第3曲 シャールカ
第4曲 ボヘミアの森と草原より / 第5曲 ターボル / 第6曲 プラニーク

5月の定期演奏会

第968回サントリー定期シリーズ

5月18日(水) 19:00

サントリーホール

第146回東京オペラシティ定期シリーズ

5月20日(金) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第969回オーチャード定期演奏会

5月22日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール



指揮：チョン・ミョンファン(東京フィル名誉音楽監督)

フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』

ラヴェル／『ダフニスとクロエ』第2組曲

ドビュッシー／交響詩『海』(管弦楽のための3つの交響的素描)

ラヴェル／管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (平日10時～18時／土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

次回3月定期のききどころ

ミハイル・プレトニョフ、
『わが祖国』を語る

©上野隆文

3月定期に登場するマエストロは特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。全曲演奏は初めて取り組むというマエストロが、スメタナ『わが祖国』について語りました。

歴史と文化がつまった国、チェコ

チェコの首都、プラハは小さいながら大変美しい町です。最近に行く機会がないため、そろそろまた行ければと願っています。プラハにはモーツァルトが歌劇『ドン・ジョヴァンニ』を作曲した家があり、現在まで保存されています。私のお気に入りの場所です。チェコは小さい国ではありますが、スメタナやドヴォルザークなどを輩出した「音楽の国」として傑出しています。東欧と言いつつも、チェコはヨーロッパの中心に位置しているのですが、ハンガリーも含め東欧諸国は周辺の大多数の民族に抑圧されていた時代があります。チェコ語で話すことすらも禁じられていました。それだけに反動として民族解放運動が起こり、民族の心を統一するような機運が自然と生まれていったのではないのでしょうか。少数民族であればあるだけ、自分たちの民族を結束しようと、そして抑圧を排除して立ち上がろうと民族性は強まるのだと思います。ハンガリーでもそういう革命的な運動はありましたし、ポーランドではショパンが、フィンランドではシベリウスが活躍した時代に独立的な気運が高まりました。そのような時代に呼応するように、音楽家は、より民族的な精神を掻き立てられる作品を創作のテーマにしていきました。

芸術による対抗から生まれた「わが祖国」

その頃は音楽家だけでなく、優れた詩人なども生まれました。時の政権からの弾圧を受けて命が危険な時にも、命を賭して己の芸術にかけるといふ心意気があったのです。ショパンやリストも同様です。リストの書いた音楽を国民は支持しましたが、政府にとっては自分たちの立場を脅かすような運動に繋がる作品は邪魔なだけでした。ロシアでも、グリンカは民族的なテーマのオペラを作りましたが、貴族や支配する立場の人にとっては邪魔な存在であり、「あんな音楽は百姓どもの下らない戯言だ」と音楽を評価しませんでした。貴族はイタリアの音楽やオペラを非常に高く評価していましたが、ロシアの民族性に根ざした音楽は毛嫌いしていたのです。

さまざまな楽曲やオペラでチェコの民族的なものを出してきたスメタナも、同じような立場にありました。「わが祖国」で、チェコの歴史を振り返させるような音楽的テーマを求めていったのです。母国語で話すことすら禁止された時代に、その民族と歴史を音楽で書くということは許しがたいことでした。しかし、状況が変わり、国民が支持するようになっていったのです。

ベートーヴェンと同じく、スメタナは「わが祖国」が完成したころ、完全に聴覚をなくしています。自分の書いたものを音としては聴いていません。スメタナが作曲した当時は、全曲を通して演奏する機会はありませんでしたが、チェコの人にとっては国民的な作品。チェコが共産主義体制から解放されたとき、最初に演奏されたのがこの曲でした。チェコの人々にとっては国歌なのです。

現代はグローバリゼーションが盛んになる一方で、民族性は薄れてきていると感じます。現代とは逆に、その頃は民族的な違いや国としての違い、民族的な色彩を強めようという流れがありました。そのような作品をスメタナが残してくれたおかげで、現代の私たちは演奏する機会に恵まれています。町も人も特色が薄らいでいる今、同一性が色濃くなるとおもしろくないと感じています。他の国と違う、他の町と違うということがあるからおもしろいの、違いがあまりない。日本人の若者が外国を旅して、自分たちと違う何かを発見することに旅のおもしろさはあると思うのです。ヨーロッパではドイツなど、まだ古いものが残っているところは興味深いです。

(2019年11月のインタビューより)

News & Information

【提携都市公演】軽井沢大賀ホール2022春の音楽祭

日本が誇る名匠・尾高忠明と日本一の歴史を紡ぐ東京フィルが、世界が注目する若手ピアニスト松田華音とともに奏でるベートーヴェン。



日時 4月29日(金)16:00開演

会場 軽井沢大賀ホール

出演 指揮：尾高忠明、ピアノ：松田華音*、東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 J.シュトラウスII／皇帝円舞曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』

料金 SS席¥11,000 S(1階・2階)¥10,000 A¥8,000 B席¥7,000

C席(2階立見席)¥4,500 W席(2階合唱席)¥5,000

※C席、W席は軽井沢大賀ホールチケットサービスでのみ取扱い

チケット申込 軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555

(休館日を除く 10:00～18:00)

東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日10:00～18:00、土日祝休)

ご挨拶 フルート奏者 名雪裕伸(2001年入団)が 2021年12月末をもって定年退職いたしました。

「82年より神奈川フィルに8年、90年より新星日本交響楽団約10年、2001年から東京フィルで20年お世話になりました。お客さまに支えられてここまで続けて来られました。楽員、事務局、スタッフの皆さん全てに感謝致します。86年にシノーポリ指揮のウィーン国立歌劇場の来日公演での『マノン・レスコー』を聴いて、第3幕の後に身動きが取れないほどの感動を覚えました。オペラの経験を積みたいと思い新星日響に移籍しました。團伊玖磨先生の指揮での『夕鶴』や、藤原歌劇団の蝶々さん(『蝶々夫人』)、二期会の『ヘンゼルとグレーテル』『メリー・ウィドウ』などでの地方公演、新国立劇場のこけら落としの『アイダ』の公演が印象深いです。

東京フィルではたくさんの舞台公演を始め、素晴らしい指揮者、ソリストとの定期演奏会と、さまざまなジャンルの音楽を経験でき、どの公演も深く心に刻まれています。まさに私の心の宝物になりました。東京フィルはお客さまの心を揺さぶるオーケストラです。これからもご支援よろしく願い致します」。長きにわたり、お疲れ様でした。ますますのご活躍をお祈りしております。



最終公演は「東急ジルベスターコンサート2021-2022」
©K. Miura

2022シーズン 今後の定期演奏会

2022年、創立111周年を迎える東京フィルの新シーズンが開幕しました。1年間、皆様へかけがえのないひと時をお届けいたします。3月～5月の定期演奏会は1回券発売中。6月～10月の定期演奏会の発売日は4月を予定しております。(残席状況はお問合せください)皆様のご来場をお待ちしております。

6～10月定期演奏会 1回券発売日

最優先(賛助会員・定期会員)	4月9日(土) 10時～ ※お電話のみ
優先(東京フィルフレンズ会員)・WEB優先	4月16日(土) 10時～
一般	4月26日(火) 10時～

3月 指揮：ミハイル・プレトニョフ (東京フィル特別客演指揮者)

第966回 3月10日(木) 19:00
サントリーホール
第145回 3月11日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第967回 3月13日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

スメタナ／
連作交響詩『わが祖国』(全曲)

1回券発売中

5月 指揮：チョン・ミョンフン (東京フィル名誉音楽監督)

第968回 5月18日(水) 19:00
サントリーホール
第146回 5月20日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第969回 5月22日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』
ラヴェル／『ダフニスとクロエ』第2組曲
ドビュッシー／交響詩『海』
(管弦楽のための3つの交響的素描)
ラヴェル／
管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』

1回券発売中

問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休／
発売日の土曜日は10時～16時)
URL www.tpo.or.jp/(24時間受付・座席選択可)

発売日などの詳細は



6
月指揮：ミハイル・プレトニョフ
(東京フィル特別客演指揮者)第970回 6月8日(水) 19:00
サントリーホール第147回 6月9日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第971回 6月12日(日) 15:00
BunkamuraオーチャードホールシCHEDリン／カルメン組曲
〈シCHEDリン生誕90年〉
チャイコフスキー／『白鳥の湖』より
(プレトニョフによる特別編集)

1回券 4月発売

7
月指揮：出口大地
(2021年ハチャトゥリアン国際コンクール第1位、
クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位入賞)
ヴァイオリン：木嶋真優*第148回 7月7日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第972回 7月10日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第973回 7月12日(火) 19:00
サントリーホールハチャトゥリアン／
バレエ音楽『ガイヌ』より
ハチャトゥリアン／ヴァイオリン協奏曲*
ハチャトゥリアン／交響曲第2番『鐘』

1回券 4月発売

9
月指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)第149回 9月15日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第974回 9月16日(金) 19:00
サントリーホール第975回 9月19日(月・祝) 15:00
Bunkamuraオーチャードホールリスト(バッティストーニ編)／
『巡礼の年』第2年「イタリア」より第7曲
ダンテを読んでーソナタ風幻想曲
マーラー／交響曲第5番

1回券 4月発売

10
月指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)第976回 10月20日(木) 19:00
サントリーホール第150回 10月21日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第977回 10月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』

🎭 オペラ演奏会形式 🎭

1回券 4月発売

2022シーズン 午後のコンサート 4回セット券発売中!

2021シーズンもたくさんの皆様に「午後のコンサート」をお楽しみいただき、ありがとうございました。2022シーズンは今年4～5月に開幕します。ゆったりとした午後のひとときを、オーケストラの名曲と幅広い世代の音楽家のお話で愉しむ「午後のコンサート」。2022シーズンもぜひお楽しみください。

発売スケジュール

▶新規に4回セット券の購入をご希望の皆様

賛助会員、定期会員様、
東京フィルフレンズ会員様
→発売中(お電話のみ)

WEB優先期間(インターネットからのお申込みでどなたでも10%オフ)
→3月7日(月)23:59まで

一般発売日→2022年3月8日(火)10:00～



料金表	S席	A席	B席	C席
4回セット券(定価)	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
(東京フィルフレンズ)	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券の販売終了後、残席がある場合にのみ販売いたします。

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522

(平日10時～18時/土日祝休・チケット発売日の土曜日は10時～16時の営業)

<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

“大人の渋谷”、Bunkamuraで楽しむ
渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール
開演 14:00 (開場 13:15)

5月16日(月)

第13回
指揮とお話：
栗田博文
北欧より



©山本倫子

7月27日(水)

第14回
指揮とお話：
三ツ橋敬子
バンドネオン：小松亮太
夏を踊る



©Earl Ross

9月2日(金)

第15回
指揮とお話：
小林研一郎
ヴァイオリン：荒井里桜
コパケンの名曲アラカルト



©山本倫子

11月24日(木)

第16回
指揮とお話：
大井剛史
ソプラノ：森麻季
クリスタル・クラシック



©K. Miura

ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美”
平日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演 14:00 (開場 13:15)

4月28日(木)

第25回
指揮とお話：
尾高忠明
ウィーンの思い出



©Takafumi Ueno

6月23日(木)

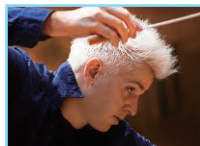
第26回
指揮とお話：
チョン・ミン
マエストロの旅



©Silvia Lelli

8月5日(金)

第27回
指揮とお話：
ダン・エッティンガー
ヴァイオリン：服部百音
千夜一夜物語



©Froehlingsdorf

10月31日(月)

第28回
指揮とお話：
円光寺雅彦
ピアノ：清塚信也
オーケストラ・クライマックス
～ピアノ協奏曲編～



©K. Miura

愛され続けて23年目。午後コンの“元祖”
休日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演 14:00 (開場 13:15)

5月15日(日)

第92回
指揮とお話：
栗田博文
北欧より



©友澤綾乃

7月24日(日)

第93回
指揮とお話：
三ツ橋敬子
バンドネオン：小松亮太
夏を踊る



©Earl Ross

9月4日(日)

第94回
指揮とお話：
小林研一郎
ヴァイオリン：荒井里桜
コパケンの名曲アラカルト



©Takafumi Ueno

11月27日(日)

第95回
指揮とお話：
大井剛史
ソプラノ：森麻季
クリスタル・クラシック



©K. Miura

※曲目など詳細はウェブサイトまたは会場で配布しているリーフレットをご参照ください。

Photo Reports 2021年10月～2022年1月の演奏会より

2021シーズンを締めくくる11月の定期演奏会は、首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。自作のフルート協奏曲『快樂の園』日本初演と得意のチャイコフスキー「交響曲第5番」で3会場を席卷。公演の様子はイタリアのメディアでも取り上げられました。人気シリーズ「平日／渋谷の午後のコンサート」にもマエストロ バッティストーニが登場。チャイコフスキーの華麗かつ憂愁の響きをお届けしました。

第23回 平日の午後のコンサート(10/21)〈忘れ難きふるさと〉

指揮とお話：円光寺雅彦 ピアノ：清塚信也*

グリーグ／劇付随音楽『パール・ギュント』より

「朝～山の魔王の宮殿にて」

グリーグ／ピアノ協奏曲*

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』



文化庁「大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業」

軽井沢大賀ホール公演(10/30)

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

語り：坂本美雨*

武満徹／系図－若い人たちのための音楽詩－*

ベートーヴェン：交響曲第5番『運命』 他

【アンコール】マスカーニ／歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より間奏曲、ボンキエリ／歌劇『ラ・ジョコンダ』より「時の踊り」フィナーレ



©武者寛

11月定期演奏会(11/1、3、4)

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

フルート：トンマーズ・ベンチョリーニ*

コンサートマスター：三浦章宏

ー バッティストーニの作品 ー

バッティストーニ／フルート協奏曲『快樂の園』～

ボスの絵画作品によせて(2019)(日本初演)*

【ソリスト・アンコール】J.S.バッハ／無伴奏フルートのためのパルティータBWV1013よりサラバンド

チャイコフスキー／交響曲第5番

【オーケストラ・アンコール】リスト(バッティストーニ編)／『巡礼の年』第2年「イタリア」よりサルヴァトーレ・ローザのカンツォネッタ



今回が日本デビューとなったソリスト、トンマーズ・ベンチョリーニ

©上野隆文



作曲と指揮の両輪で会場を魅了したマエストロ、バッティストーニ

©上野隆文

第12回 渋谷の午後のコンサート(11/2)、第90回 休日の午後のコンサート(11/7) (バッティストーニの運命)

指揮とお話：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

通訳：井内美香

コンサートマスター：三浦章宏

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲

ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲

ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』 他

【オーケストラ・アンコール】リスト(バッティストーニ編)／『巡礼の年』第2年「イタリア」よりサルヴァトーレ・ローザのカンツォネッタ



マエストロの楽しいお話と名曲の後には愛らしいアンコールも演奏されました

©青柳 聡

文化庁「大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業」 豊中市立文化芸術センター公演(11/17)

指揮：三ツ橋敬子 ピアノ：清水和音*

コンサートマスター／ヴァイオリン：三浦章宏**

バーンスタイン／『キャンディード』序曲

ガーシュウィン／ラプソディ・イン・ブルー*

サン＝サーンス／序奏とロンド・カプリチオーゾ**

ラヴェル／ボレロ 他



ソリストもつとめたコンサートマスター三浦章宏

ベートーヴェン『第九』特別演奏会(12/23、25、26)

指揮：角田鋼亮 ※当初の発表から変更となりました。

ソプラノ：迫田美帆 アルト：中島郁子

テノール：清水徹太郎 バリトン：伊藤貴之

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：水戸博之)

ベートーヴェン／歌劇『フィデリオ』序曲

交響曲第9番二短調『合唱付』

協賛：日本ライフライン株式会社(12/23)、楽天カード株式会社(12/25)

楽天グループ株式会社(12/26)



今年も3会場で「歓喜の歌」が響き渡りました

©上野隆文

ニューイヤーコンサート2022(1/2、3)

指揮：角田鋼亮 ピアノ：角野隼斗(1/2)* ヴァイオリン：岡本誠司(1/3)** 司会：朝岡 聡

J.シュトラウスII／喜歌劇『こもり』序曲

チャイコフスキー／

ピアノ協奏曲第1番第1楽章(1/2)*

チャイコフスキー／

ヴァイオリン協奏曲第1楽章(1/3)**

エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

ラヴェル／ボレロ

【お楽しみ福袋プログラム】

両日：ポロデン／

歌劇『イーゴリ公』より“ダッタン人の踊り”

1/2：J.ウィリアムズ／

『スター・ウォーズ』よりメイン・タイトル

1/3：スメタナ／

連作交響詩『わが祖国』より“モルダウ”

「文化・芸術の力」が築く 心豊かで平穏な未来へ

滋慶学園グループ 総長 The Symphony Hall 総監
(関西経済同友会 文化・芸術の力委員会 委員長)
浮舟 邦彦



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第7回は、滋慶学園グループ総長として長年学校経営に携わり、同時にThe Symphony Hall 総監や東京フィル理事など、文化芸術をさまざまに支える活動を続けてこられた、浮舟邦彦様です。



美しい秋の空、紅葉に彩られる山々。その美しさを眺めながら毎年この季節になると1年を振り返ります。学校経営を始めて45年、私の人生に多くの彩と余裕を与えてくれたのが、文化・芸術ではないかをつくづく実感します。思考を支える左脳と感性を育てる右脳のバランスが大切なのだろうと感じています。

12月になると第九を聴き、大晦日は家族でジルベスターコンサート。そして初詣に出かける。クラシック音楽が昔から大好きだった私にとって、こうした越年が至福の想い出となり、今なお続いています。コロナ禍によりそうした至福の時間の多くが奪われました。

文化・芸術鑑賞は「不要不急」なのか？ 大きな議論も呼びました。先日来日した世界的なピアニストで指揮者のバレンボイム氏は「人間にとって精神性は不可欠であり、古来から人間の高度な精神性を支えて来たのが文化・芸術である」と説かれています。40年ほど前にグループ内に音楽の学校を作り、舞台芸術をサポートする人材育成を始め、縁が有って東京フィルの理

事に就任し、文化・芸術を支える仕事を始めました。

そして2014年には日本初のクラシック音楽専用ホール、大阪の「*The Symphony Hall*」をこれまた縁あって引き継ぎました。私達の生活に欠かす事の出来ない大切な文化・芸術と日本に初めて出来たクラシック音楽専用ホール。この歴史と伝統の文化資産を未来に継承していきたい。この事が、心豊かで平穏な社会を未来へ継承する一助となるのではないか。そんな一念で今も続けています。

直接「見て、聴いて、感じ、考える」。ポストコロナ時代、急速なデジタル化とヴァーチャル化の波の中で、私はこれからもリアルにクラシック音楽と触れ合い、心のバランスを整え、社会に貢献していきたいと考えています。「触れてよし」「深みにハマって更によし」。

2022年平常な世となり、「文化・芸術の力」が発揮され、社会・経済の再起動を牽引する時代が来ることを願っています。

これからも東京フィルを愛して下さるファンの皆さんと共に楽団を支えたい。笑顔でホールで出会い、音楽を楽しみ、文化・芸術を語り合える、そんな日常を楽しみたいと思っています。



日本初のクラシック音楽専用
ホール「*The Symphony Hall*」

浮舟邦彦（うきふね・くにひこ）

1941年大阪府生まれ。1964年関西学院大学法学部卒業。1983年学校法人滋慶学園理事長、1987年大阪滋慶学園理事長、滋慶学園グループ総長。医療秘書教育全国協議会理事長。米州立ウエストフロリダ大学、韓国啓明大学など名誉博士。

平成13（2001）年より公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団理事。

滋慶学園グループ様は、浮舟邦彦氏が1976年に開校した新大阪歯科技工士学院（現専門学校）や滋慶医療科学大学、同大学院、専門学校など計79校（学生約3万7千人）を東京、大阪など全国に展開する教育グループです。ザ・シンフォニーホール、株式会社ジャパン・アーツなど多くの企業・団体が構成メンバーです。

寒い中にも春が近づいているのを肌で感じるこの頃、
皆さまにおかれましては、ご健勝のことと存じます。
今月は、建築家でもあったイアニス・クセナキスの生誕100年を祝し、
日本初演となる演奏をお披露目いたします。
マエストロと楽団が織りなす演奏をぜひご堪能ください。
引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 片野坂 真哉	花王(株) 代表取締役 社長執行役員 長谷部 佳宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
(株)アシックス 代表取締役会長CEO 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋

コスモエネルギーホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長兼社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 三和 千之

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トップパン・フォームズ(株)
代表取締役社長 坂田 甲一

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役社長 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱商事(株)
代表取締役社長 垣内 威彦

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、チケット払戻しのご辞退やご寄附等、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、2年が経とうとする今も、社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。現在も公演の中止や延期、チケットの販売停止が頻発しています。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（45ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー 交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」／ 「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ（少人数での事前指導）と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け（2014～2021年度）、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度からは、これまでの訪問地域に加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。

また、令和3年度に実施された文化庁「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得なかった文化芸術鑑賞・体験教室等について、文化庁が支援することにより子供たちが質の高い文化芸術に触れる機会を創出し、冷え込んだ文化芸術への関心を取り戻すことを目的として行われました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは42ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン（2019年7月東京オペラシティ定期）

©上野隆文

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」として活用させていただいてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運用を見合わせておりましたが、2021年1月定期よりご案内を再開いたしました。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522（10時～18時／土日祝休）

1月の定期演奏会は中止となりました。払い戻し辞退などの形でご寄附いただいた皆様に、御礼申し上げます。

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは一年の始まりである1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の新しい暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化するグローバル社会において心の豊かさを育み、文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部（担当：星野^{かのまた} 麗文）

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子○ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	岩倉 宗二郎 Sojiro Iwakura	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	小田 愛美 Manami Oda	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	平田 慎 Shin Hirata	
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	山内 正博 Masahiro Yamauchi	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	チューバ Tubas	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo	トランペット Trumpets	萩野 晋 Shin Ogino	
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi			
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furutai	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2022(令和4)年2月24日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとまき

〈印刷〉歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

SEASON 2022